

# 国際研修 (コ05)

**研究組織** 加藤雅人、五木田まきは、大川柚佳(以上、文化遺産国際協力センター)、早川典子(保存科学研究センター)

**目的** 近年、日本の材料や道具、保存修復の理念が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に直接日本の技術や知識を伝える場が求められている。そこで、国内外において関係諸機関との共催あるいはそれらの機関の協力を得て研修等を開催することで、保存修復関係者への技術移転と情報共有を行う。

## 成果

本事業では「紙の保存と修復」(文化財保存修復研究国際センター (ICCROM) との共催)、「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」(ICCROM、メキシコ文化省国立人類学歴史機構 国立文化遺産保存修復調整機関 (CNCPC-INAH) との共催)を毎年行う予定としている。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により上記研修の中止を余儀なくされた一方で、これらの最適化を図るために今までの研修の評価を行った。また、新型コロナウイルス感染症が蔓延するような状況への対応も見据え、研修へのオンライン化導入に関してその可能性から検討した。

### 1. これまでの研修の評価

- 運営資料のデジタル化  
1992 (平成4) 年度及び1998 (平成10) 年度分
- 国際研修「紙の保存と修復」評価アンケート  
アンケート回収期間：  
2022 (令和4) 年3月～5月  
実施者：東京文化財研究所、ICCROM  
対象者：過去の研修修了者  
内容：研修内容の活用実態の調査



IT 技術導入のための実証実験

### 2. オンライン化導入に関わる検討

- 意見交換会  
期 日：2021 (令和3) 年5月14日  
方 法：研究所における会議とオンラインの併用  
参加者：国際研修事業関係者、教育機関等での実技指導経験者  
内 容：リモートでの講義、実技指導の手法や課題等についてのヒアリング
- 国際研修におけるIT技術導入のための実証実験  
期 日：2021 (令和3) 年9月1日、9月8日～15日、11月24日～25日  
会 場：東京文化財研究所  
研修生：研究所職員  
講 師：装漢修理技術者、研究所職員  
内 容：講義 (伝統的接着剤、紙)、装漢修理技術実習 (卷子修復)、ディスカッション
- 報告書  
内 容：実証実験内容及び結果、ディスカッション、事後アンケート  
公開方法：PDFデータを東京文化財研究所刊行物リポジトリに掲載

### 刊行物

- 『国際研修「紙の保存と修復」リモート開催の可能性』 (PDF版のみ) 東京文化財研究所 22.3